

# 2023年3月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
26	27	28	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8

**【使用薬剤】**  
オルトラン液剤  
トップジンMゾル

早めの消毒が大切！  
特に新芽に被害がでるゾウムシは、早い  
と3月下旬から出始めるので注意！

**【使用薬剤】**  
ベニカR  
サルパトールME

そろそろ病害虫の被害本番の季節！  
根元からは咲きまでたっぷり散布し、  
かけむらが無いよう意識しましょう。

# 2023年4月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	1	2	3	4	5	6

**【使用薬剤】**  
モスピラン液剤  
サブロール乳剤

気温が上がり始めるこの季節は黒点病も出始めます！  
症状の無い葉の予防を心がけ、葉ウラを重点的に！（黒点病は葉ウラの気孔から侵入します）  
このタイミングにしっかり消毒出来れば、ゾウムシの被害はグッと減ります。

**【使用薬剤】**  
オルトラン液剤  
トップジンMゾル

そろそろつぼみが見えてくる頃。  
つぼみを食べられないよう枝先を。  
黒点病にならないよう株元付近の葉ウラを重点的に消毒します。  
つぼみは起毛は多く、薬剤をはじき易いので、しっかりめに散布しましょう。

**【使用薬剤】**  
ベニカR  
サルバトールME

開花まであと少し！  
早く咲く品種はつぼみが割れ花色が見え始めるので、花卉にかからないよう注意しましょう。  
根元付近の葉ウラを重点的に消毒し、黒点病が出ないように意識しましょう！

# 2023年5月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	
30	1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	<div data-bbox="1213 690 1476 883" data-label="Text"> <p><b>【使用薬剤】</b> モスピラン液剤 サプロール乳剤</p> </div>		<div data-bbox="1494 752 2068 1093" data-label="Text"> <p>開花がスタートし始めるこの時期は、花に栄養が集中して葉が栄養失調気味に。この時期が黒点病が予防できるかどうかの重要ポイントです！ 引き続き株元付近の葉ウラを重点的に、葉っぱを守るイメージで散布しましょう。花卉に薬剤がかかるとシミが出来るので、葉っぱメインでOKです！</p> </div>		20
21	22	23	24	25	26	27	
<div data-bbox="223 1103 486 1296" data-label="Text"> <p><b>【使用薬剤】</b> オルトラン液剤 トップジンMゾル</p> </div>			28	29	30	31	
4	<div data-bbox="502 1271 1073 1553" data-label="Text"> <p>春1回目の開花が終わるタイミングは要注意！ バラ自身も咲き終えて気が抜けているので病気が出やすくなります。 2番目の花を楽しみやすくするためにも、ここからしばらくがんばりましょう！</p> </div>						

# 2023年6月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
28	29	30	31	1	2	3
				【使用薬剤】 ベニカR サルバトーレME		
4	5	6	7		9	10
						【使用薬剤】 モスピラン液剤 サプロール乳剤
11	12	13	この時期は気温が高い日⇔曇天を繰り返します。 気温が上がる日は午前中にこだわらず、涼しい時間帯を優先して夕方の散布に切り替えてもOK！ 雨予報の前後のタイミングでの消毒を心がけます。 特に雨前の消毒に展着剤「アビオンE」が効果を発揮します。 食欲旺盛なケムシやアオムシ系の虫も出てくるので、枝先までしっかり散布しましょう！			
18	19	20				24
	【使用薬剤】 オルトラン液剤 トップジンMゾル					
25		27	28	29	30	1
2	3	メモ				

# 2023年7月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	
9	10	11	12	13	14	15
16	17	<p>梅雨が明けて本格的な夏日になると、バラの病気も少し落ち着きます。ここから先は「しっかり消毒を続けて美しく保つ」か「一旦秋まで一休み、春秋のみバラの花が楽しみやすい時期だけ消毒する」かの2択になります。前者の場合、薬剤ごとの使用回数を超えるので、いくつかの薬剤を買い足す必要があります。後者の場合は、多少夏場で病気が出てしまったとしてもある程度割り切って9月ごろからのお手入れ再開を目指しましょう。ちなみにまつおえんげいでは、この中間くらいのお手入れをしています。バラの消毒は手間のかかる作業ですので、「バラを痛めないようにしなければ!」という思いが重荷になってしまわないよう自分のペースと負担とを考えてみてくださいね!</p>			21	22
23	24				28	29
30	31	メモ				

**【使用薬剤】**  
ベニカR  
サルバトールME